

第39号

平成27年3月3日発行
編集局 JA山口中央会



集落営農法人だより

第3回課題別研修会【人/情報編】開催 ～平成30年を目指した法人の体制づくりを考える～

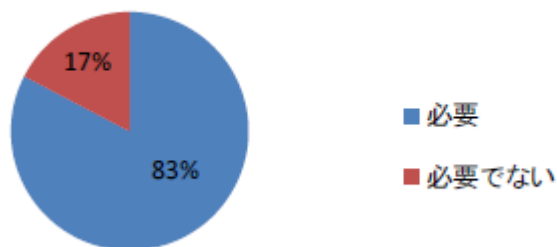
2月19日（木）に山口市のKKR山口あさくらで、「第3回課題別研修会【人/情報編】」を開催し、会員法人・関係機関等約60名が参加しました。

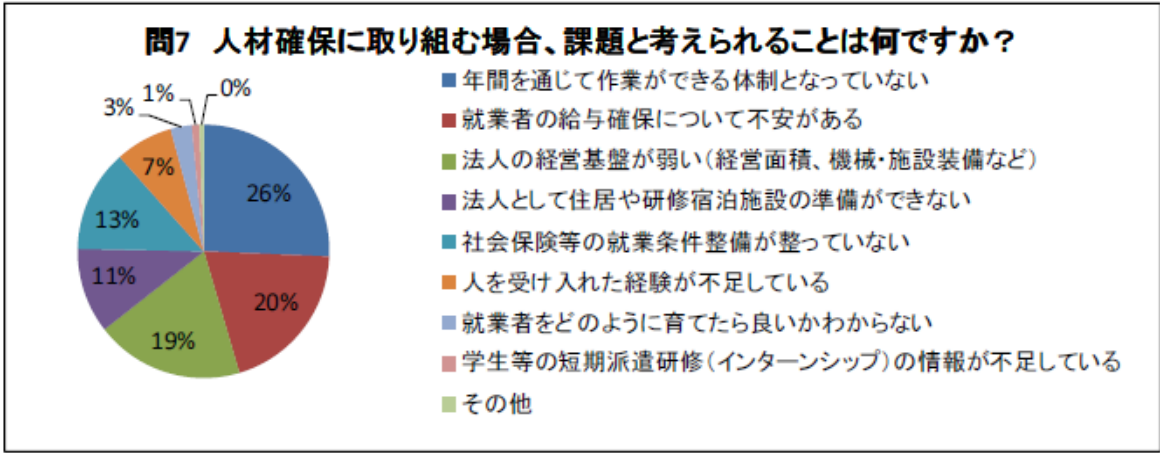
今回は「平成30年を目指した法人の体制づくりを考える」をテーマに、法人経営を継続していくための人づくり、体制づくりについて、講義やグループワークを通じ、理解を深めました。

山口県集落営農法人連携協議会の山本会長は、開会あいさつの中で、「厳しい時期だからこそ、今一度設立当初の目的を思い出し、その目的のためにどうすべきか、何を優先すべきか知恵を絞ってほしい」と話されました。

研修会では、県農業振興課の実施した人材確保等に関するアンケート調査結果が配布されました。アンケート結果からも、人材確保の問題は、多くの会員法人が課題としていることが表れていました。しかし、人材を確保したくても、会員法人の多くが、さまざまな課題を抱えていることが見えてきました。

問4 あなたの法人は、今後、新たな人材確保が必要ですか？





全員が共感する集落営農法人とは？

5年後、10年後続いていく組織をどうつくる？

「大変だと言われているときこそ、変革のチャンス。環境が大きく変化するとき→みんなが動き出すときです。」



別府大学 森宗一講師

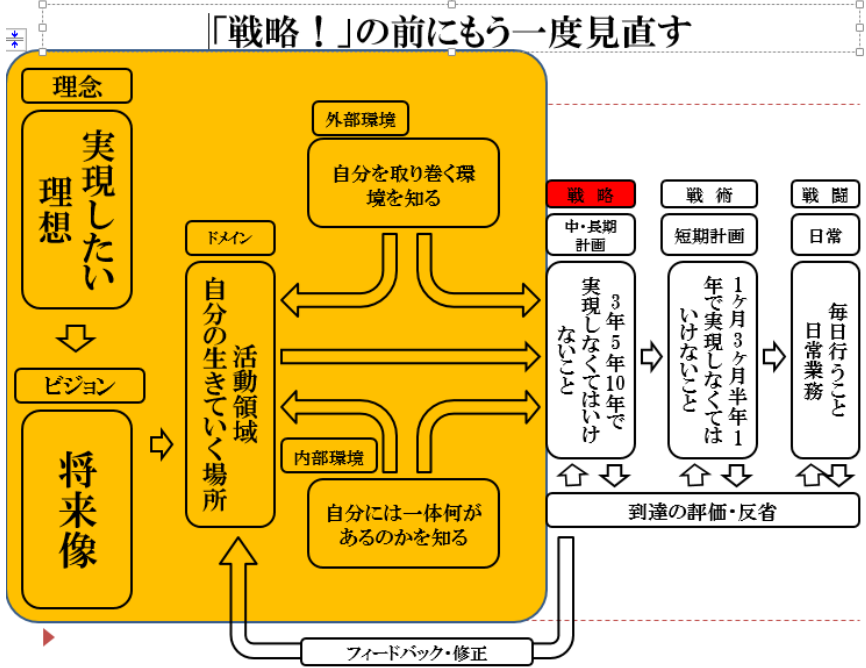
これは、大分県の別府大学 森宗一先生の言葉です。

今回の研修会では、別府大学の森先生に「全員が共感する集落営農を目指して」と題し、人材を受け入れるため、また平成30年を目指した法人の体制づくりを考えるため、「経営理念」や「戦略」についてお話をいただきました。

森先生は、経営戦略論や経営組織論が専門で、中小企業における経営戦略の策定や、人材育成、ビジネスモデルの構築など、コンサルタントや大分県の普及指導協力員としても活躍されています。

森先生は、ゴール(目標)を決めてどうするかを考え、行動するかを決めることが「戦略」であり、戦略には、「期限(いつまでに)」と「程度(どのくらい)」が重要となる、と説明されました。

そしてさらに、「戦略」を立てる前に、組織とはなにか、ゴール(目標)が法人内で共有されているか、若い世代へと引き継げる組織となっているか、問いかけられました。



森先生は、2人以上になったら実質的には組織というが、目的を意識して集まり、力を合わせて何かを行おうとしなければ、組織とは言わない。組織として仕事に分業できるよう、仕事を見える化し、整理・整頓（JGAPの考え方）を心掛けることで、変革の原動力とすることができる、と力を込められました。

講義の後は、各班に分かれ「5年度、10年後、元気な法人であり続けるために」と題し、ワークショップを行いました。

各グループとも、とても熱心にご協議をいただき、いろんな意見が出ていました。



【発表された参加者の方々】



第1班

- ▶ 担い手対策・国の助成金問題
 - いかに所得を上げるか
 - 生産コストを下げる
- ▶ 複合経営へ移行
- ▶ 地域還元金を作る
- ▶ 経営分析と赤字問題
- ▶ 大型機械の導入
- ▶ ほ場整備と法人経営
- ▶ 法人の活動を公開（全員参加）→役員会の実施
- ▶ 女性部の活用
- ▶ いきなりの法人合併は無理



第2班

- ▶ 5年後・10年後は見えない
- ▶ 若者がいない
- ▶ 野菜：儲からない
- ▶ 地域のつながりが少なくなった
- ▶ 田舎暮らしを楽しめる地域づくり
- ▶ 新規就農者の受け入れ
- ▶ 農業大学の学生研修
- ▶ 多角化
- ▶ 相場と自分たちの価値観の違い
- ▶ 適地適作（指導を受ける）
- ▶ ほ場整備と湿田



第3班

- ▶ 法人の設立目的(農地・地域の保全)
- ▶ 担い手の確保
- ▶ 若者が生活のできる稼ぎ
- ▶ 自治会活動(非農家)
- ▶ ブランド米:AAA米(熊本・福岡・佐賀)山口県ではない 新しい品種の研究開発(県内50%の消費に留まる)
- ▶ 大豆の新品種
- ▶ 米の単価下落による酒米への移行



第4班

- ▶ 後継者・人材不足
- ▶ いかにか若者を誘い込むか
- ▶ 「儲かる農業」の確立
- ▶ 低コストへの挑戦
- ▶ やりがいと理念:郷土愛

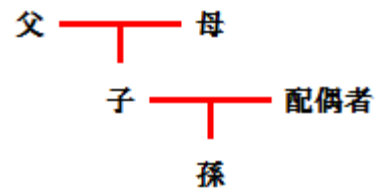
第5班

- ▶ 宝の山をつくる
- ▶ WCS・飼料用米・薬草
- ▶ 小さな農協の設立
法人連携ネットワーク
JAとともにビジョンをつくる



第6班

- ▶ 米作りの生産性向上
- ▶ 経費の削減
- ▶ 複合化:大豆の生産
- ▶ 酒米という選択肢
- ▶ 新規就業者:法人メンバーであると同時に個人農家である
- ▶ 地域との交流



【森先生の講評】

- T型集落点検（家族や集落がどんな状況にあるか、またこれからどんな状況を迎えることになるかを予測し、把握するために有効な点検方法）の実施
- 農作業の危険個所の見える化をし、仕事効率をアップし、安全に農業を行ってほしい。
- 例えば人材バンク。集落内に作業のできる人を募集する。
- 県外に出ている家族を、お祭りなどを活用し、徐々に農業や地域にならす。里帰りの仕組み。
- お祭りとのセットなどの工夫で、草刈りなどの定期的な作業をイベント化。
- 役員だけで悩まず、みんなで課題を共有する体制づくりが目標実現のスピードを上げる。
- 集落だからこそ、ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）が大切。
- 雇用者に冬場の仕事がないなら、作業のない期間をつくってしまう。（作業のない期間は、他の仕事を探してもらおうのもよい。 例）スキーのインストラクターなど
- やり方は1つではない。厳しい時代だが、やり方は必ずある！

つづいて、情報提供として、平成27年度の新たな担い手支援策について、県農業振興課より説明がありました（詳細：別紙）。

山口県では「担い手支援日本一」を掲げ、担い手の定着に重点を置いた、県域・地域の一体的な取り組み体制を構築し、法人を軸に地域を支える新規就農者の育成に力をいれていく、とのこと。本協議会としても、県等関係機関と連携していきます。

アンケート結果は以下のとおりです。

「心に残ったキーワード」

- ・ 理念＝実現したい理想
- ・ 地域を育てる
- ・ 仕事の見える化による意思統一
- ・ 整頓＝すぐ使えるように配置すること
- ・ 機械の管理が行き届いている組織は収量が多い
- ・ 経営計画を立てている組織は収量が多い

「研修を受けて今後法人で取り組みたいと思ったこと」

- ・ 経営計画を立てる
- ・ 女性の活用
- ・ 定期的な話し合いの場の設置
- ・ 構成員への計画の周知
- ・ 自治体の活用
- ・ 付加価値づくり

*_*_*お忘れもののお知らせ*_**_*

写真のジャンパーを事務局にてお預かりしています。

昨年12月12日（金）JA山口中央本所にて開催した「決算・総会研修会」の際、会場に置いてあったものです。お心当たりのある方は、協議会事務局まで、ご連絡下さい。（TEL：083-902-7503）

